

氏名 寺 田 紘 一

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学位授与番号 乙 第 897 号

学位授与の日付 昭和 52 年 9 月 30 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学位論文題目 MNNG 誘発ラット胃癌の発癌初期胃粘膜の増殖動態について
— ラジオオートグラムによる検討 —

論文審査委員 教授 寺本 滋 教授 小川勝士 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

34 匹のラットに MNNG を投与後 191 日より 378 日の間に屠殺し、腺胃幽門腺領域に 94 病巣を認めた。組織学的には regenerative glandular hyperplasia 34 病巣、adenomatous glandular hyperplasia 44 病巣および adenocarcinoma 16 病巣に分類された、これら諸病巣を ^3H -thymidine ラジオオートグラムを作製して検索した。

標識帯は、これら病巣の周辺粘膜層より病巣部にかけて上下にひろがる所見が認められた。つぎに、腺頸部細胞から腺窩上皮細胞と被蓋上皮細胞への正常腺管の増殖と分化の規律性は、regenerative glandular hyperplasia、adenomatous glandular hyperplasia では保たれていたが、adenocarcinoma では喪失していた。さらに諸病巣を構成する細胞で正常腺管に存在しない細胞は ^3H -thymidine の取りこみの多寡により dark cell と red cell に区別された。前者は腺頸部細胞に、後者は再生上皮または腺窩上皮細胞への類似性が認められ、adenocarcinoma は異型性の強いこれら 2 種の細胞で構成されていた。このことは、MNNG による損傷とその再生が繰り返される際に、MNNG によって腺頸部細胞に dark cell と red cell への分化の異常が生じて、これら 2 種の細胞により adenocarcinoma は構成されているものと推察された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は胃癌に関する実験的研究であるが MNNG 誘発ラット胃癌の発癌初期胃粘膜の増殖動態についてラジオオートグラムにより検討したものであって、胃癌の組織発生に関する重大な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があるものと認める。